

## 2-1 北海道地方とその周辺の地震活動（2025 年 11 月～2026 年 4 月）

### Seismic Activity in and around the Hokkaido District (November 2025 – April 2026)

気象庁 札幌管区気象台  
Sapporo Regional Headquarters, JMA

今期間、北海道地方とその周辺で M4.0 以上の地震は 226 回、M5.0 以上は 41 回発生した。このうち最大規模は、2025 年 12 月 8 日に青森県東方沖で発生した M7.5 の地震（詳細は東北地方とその周辺の地震活動（2025 年 11 月～2026 年 4 月）を参照）であった。

2025 年 11 月～2026 年 4 月の M4.0 以上の地震の震央分布を第 1 図 (a) 及び (b) に示す。

主な地震活動は以下のとおりである。

#### (1) 釧路沖の地震（M5.2, 最大震度 4, 第 2 図 (a), (b)）

2025 年 12 月 2 日 19 時 03 分に釧路沖の深さ 45km で M5.2 の地震（最大震度 4）が発生した。この地震の発震機構（CMT 解）は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

#### (2) 根室半島南東沖の地震（M5.4, 最大震度 3, 第 3 図）

2025 年 12 月 20 日 21 時 30 分に根室半島南東沖の深さ 15km で M5.4 の地震（最大震度 3）が発生した。

この地震の発震機構（CMT 解）は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

#### (3) 宗谷地方北部・南部の地震活動（M5.2, 最大震度 3, 第 4 図 (a), (b)）

宗谷地方北部・南部では、2026 年 1 月 12 日 01 時頃からややまとまった活動が見られ、2 月中旬までに震度 1 以上を観測した地震が 44 回（震度 3：5 回、震度 2：14 回、震度 1：25 回）発生した。これらの地震は地殻内で発生した。このうち最大規模の地震は 1 月 13 日 01 時 58 分に発生した M5.2 の地震（最大震度 3）である。この地震の発震機構（CMT 解）は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

#### (4) 択捉島南東沖の地震（M6.3, 最大震度 2, 第 5 図 (a), (b)）

2026 年 1 月 13 日 16 時 34 分に択捉島南東沖の深さ 30km（CMT 解による）で M6.3 の地震（最大震度 2）が発生した。この地震の発震機構（CMT 解）は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

#### (5) 釧路沖の地震（M5.6, 最大震度 3, 第 6 図 (a), (b)）

2026 年 1 月 15 日 07 時 13 分に釧路沖の深さ 31km で M5.6 の地震（最大震度 3）が発生した。この地震の発震機構（CMT 解）は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

(6) 根室半島南東沖の地震 (M5.0, 最大震度 3, 第 7 図)

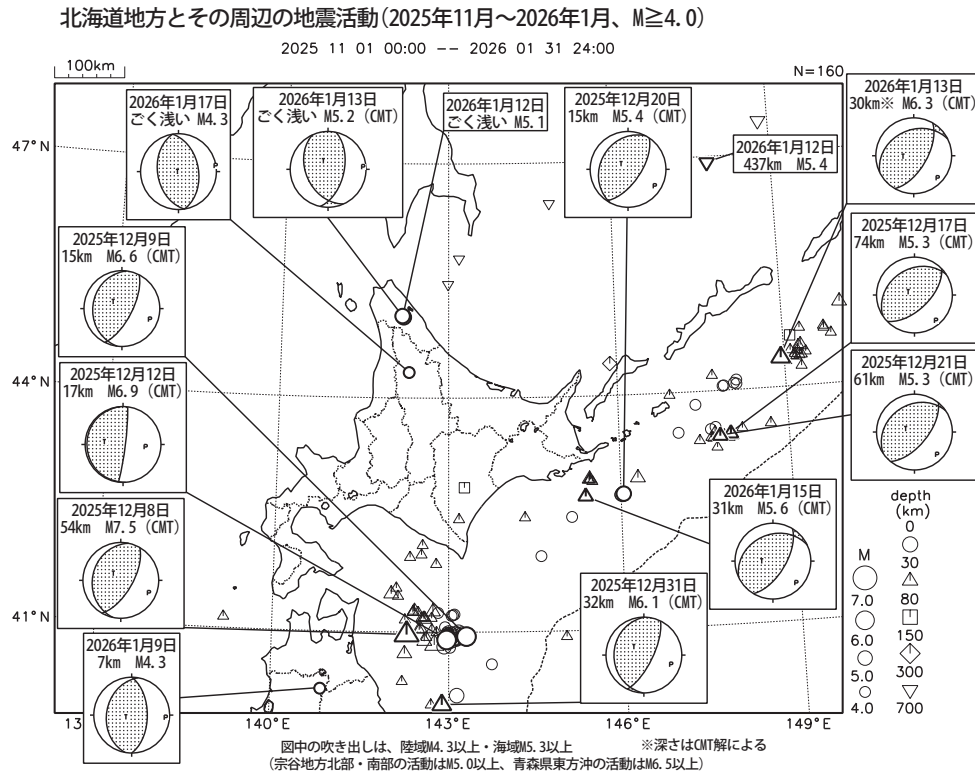
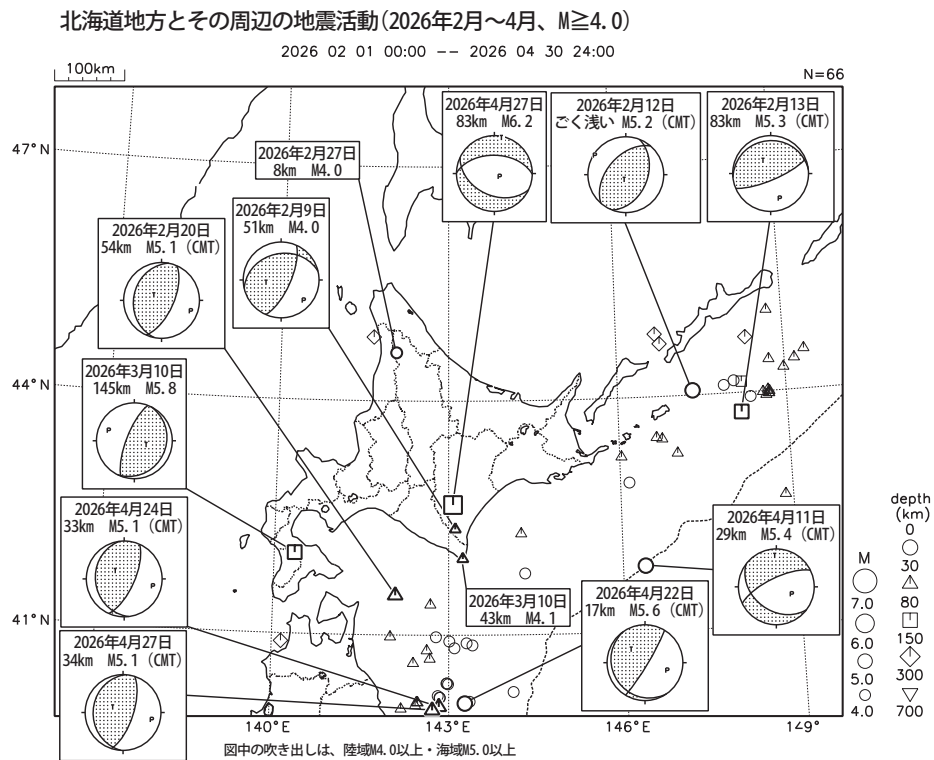
2026 年 1 月 27 日 11 時 47 分に根室半島南東沖の深さ 42km で M5.0 の地震 (最大震度 3) が発生した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。発震機構 (CMT 解) は南北方向に張力軸を持つ型である。

(7) 北海道東方沖の地震 (M5.2, 最大震度 3, 第 8 図)

2026 年 2 月 12 日 03 時 00 分に北海道東方沖で M5.2 の地震 (最大震度 3) が発生した。この地震の発震機構 (CMT 解) は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

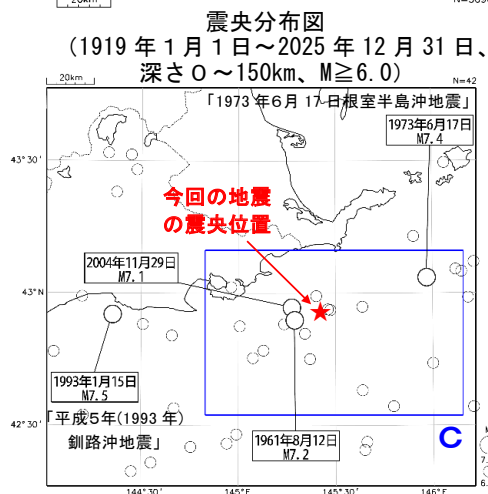
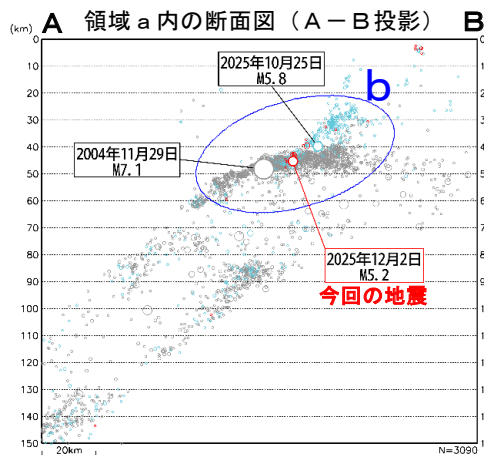
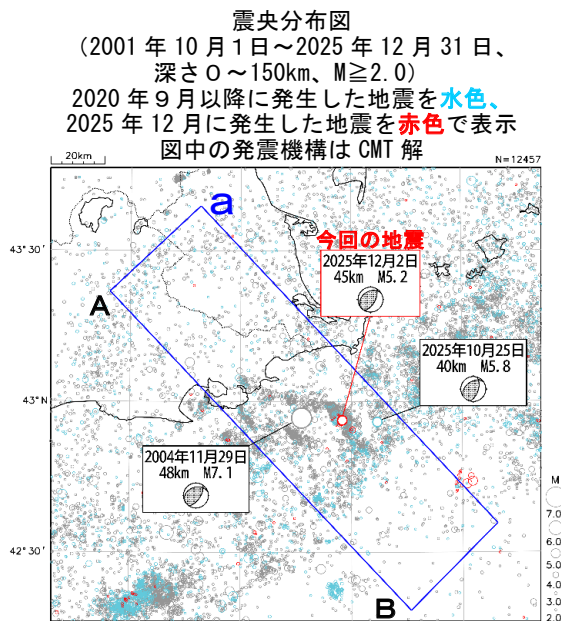
(8) 十勝地方南部の地震 (M6.2, 最大震度 5 強, 第 9 図)

2026 年 4 月 27 日 05 時 23 分に十勝地方南部の深さ 83km で M6.2 の地震 (最大震度 5 強) が発生した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。発震機構は北北東－南南西方向に張力軸を持つ型である。

第 1 図 (a) 北海道地方とその周辺の地震活動 (2025 年 11 月 ~ 2026 年 1 月,  $M \geq 4.0$ , 深さ  $\leq 700$ km)Fig. 1(a) Seismic activity in and around the Hokkaido district (November 2025 – January 2026,  $M \geq 4.0$ , depth  $\leq 700$ km).第 1 図 (b) つづき (2026 年 2 月 ~ 4 月,  $M \geq 4.0$ , 深さ  $\leq 700$ km)Fig. 1(b) Continued (February – April 2026,  $M \geq 4.0$ , depth  $\leq 700$ km).

## 12 月 2 日 釧路沖の地震

情報発表に用いた震央地名は〔根室半島南東沖〕である。

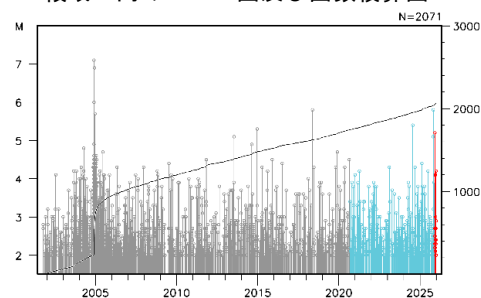


2025 年 12 月 2 日 19 時 03 分に釧路沖の深さ 45km で  $M5.2$  の地震 (最大震度 4) が発生した。発震機構 (CMT 解) は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。この周辺では、2025 年 10 月 25 日に  $M5.8$  の地震 (最大震度 5 弱) が発生した。

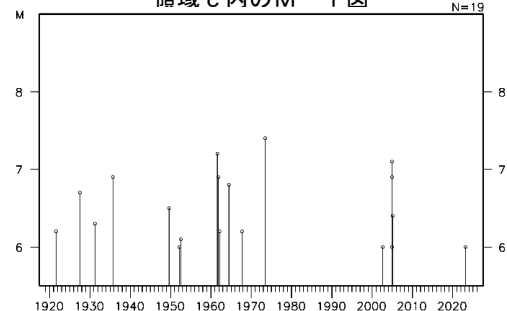
2001 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域 b) では、 $M5.0$  以上の地震が時々発生している。2004 年 11 月 29 日に発生した  $M7.1$  (最大震度 5 強) の地震では、負傷者 52 人、住家被害 5 棟などの被害が生じ、根室市花咲で最大の高さ 12cm の津波を観測するなど、北海道太平洋沿岸東部で小さな津波を観測した (被害は総務省消防庁による)。

1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域 c) では、 $M7.0$  以上の地震が 3 回発生している。「1973 年 6 月 17 日根室半島沖地震」( $M7.4$ 、最大震度 5) では、根室・釧路地方で負傷者 26 人などの被害が生じ、根室市花咲で最大の高さ 280cm (平常潮位からの最大の高さ) の津波を観測するなど、北海道から四国地方にかけての太平洋沿岸で津波を観測した (被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域 b 内の M-T 図及び回数積算図



領域 c 内の M-T 図



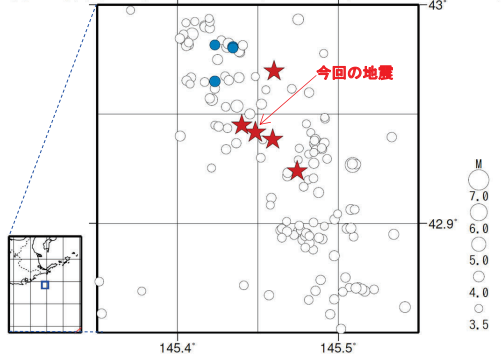
第 2 図 (a) 2025 年 12 月 2 日 釧路沖の地震

Fig. 2(a) The earthquake off Kushiro on December 2, 2025.

## 12月2日の釧路沖の地震（相似地震）

釧路沖で発生した2025年12月2日 (M5.2、最大震度4) の地震について、  
強震波形による相関解析を行った結果、既往の相似地震グループの最新の相似地震として検出された(グループA)<sup>※1</sup>。  
(1988年10月1日～2025年12月2日、深さ0～80km、M $\geq$ 3.5)

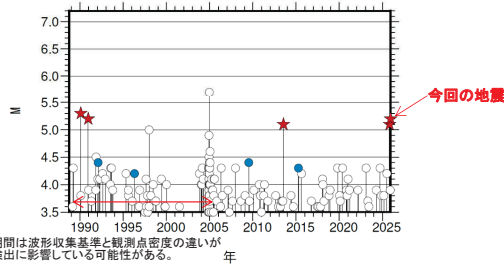
震央分布図

発生間隔と推定年平均すべり量<sup>※2</sup>

| グループ | 回数 | 平均M  | 震度 |    | 発生間隔 |      |       | 平均すべり量<br>(cm/年) |
|------|----|------|----|----|------|------|-------|------------------|
|      |    |      | 最大 | 最小 | 平均   | 最短   | 最大    |                  |
| A    | 5  | 5.18 | 4  | 3  | 8.96 | 0.11 | 22.60 | 4.06             |
| B    | 4  | 4.33 | 3  | 2  | 7.72 | 4.21 | 13.22 | 3.49             |

★ A  
● B  
今回の地震

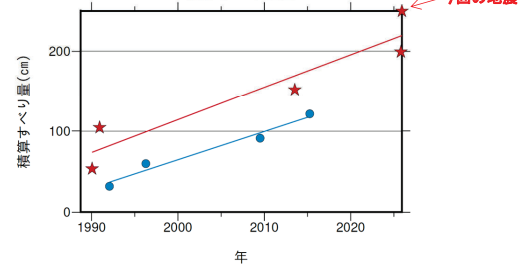
M-T図 (上図内)



赤矢印の期間は波形収束基準と観測点密度の違いが  
相似地震検出に影響している可能性がある。

※1 各観測点の波形の比較で得られたコヒーレンスの中央値が0.95以上の場合に相似地震として検出し、相似地震のグループ分けはコヒーレンスを用いて機械的に進めている[溜瀬ほか、2014]。

※2 すべり量推定には、モーメントマグニチュードと地震モーメントの関係式[Hanks and Kanamori(1979)]及び 地震モーメントとすべり量の関係式[Nadeau and Johnson(1998)]を使用。得られた積算すべり量と経過時間から最小自乗法を用いてグループ毎の年平均すべり量を求めた。

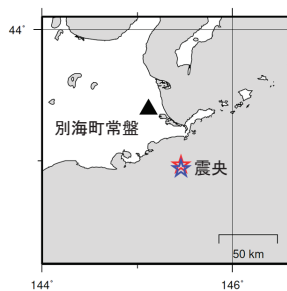
積算すべり量図<sup>※2</sup>

## ●波形例

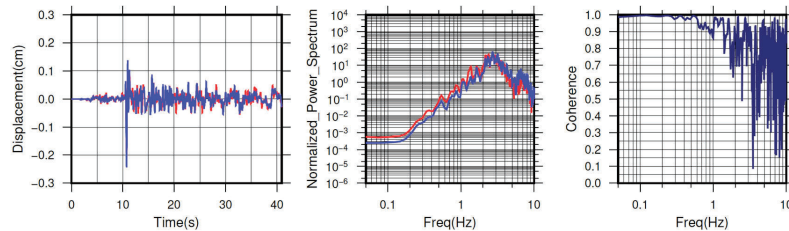
観測点名: 別海町常盤

2013/07/16 23:09:27 M5.1

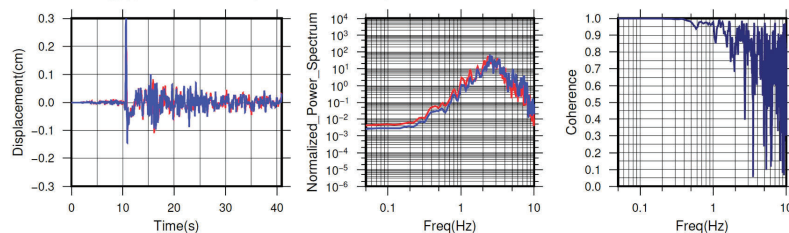
2025/12/02 19:03:04 M5.2



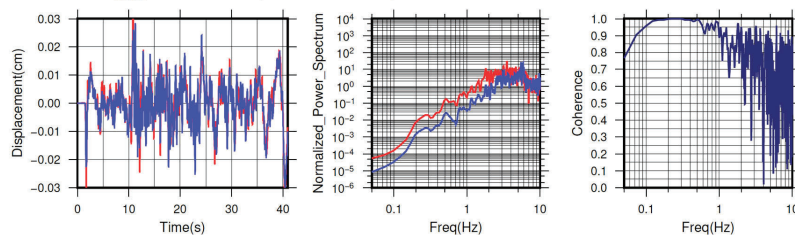
N S成分: Cohr=0.95 (0.27 - 1.07 Hz)



E W成分: Cohr=0.97 (0.27 - 1.07 Hz)



U D成分: Cohr=0.96 (0.27 - 1.07 Hz)

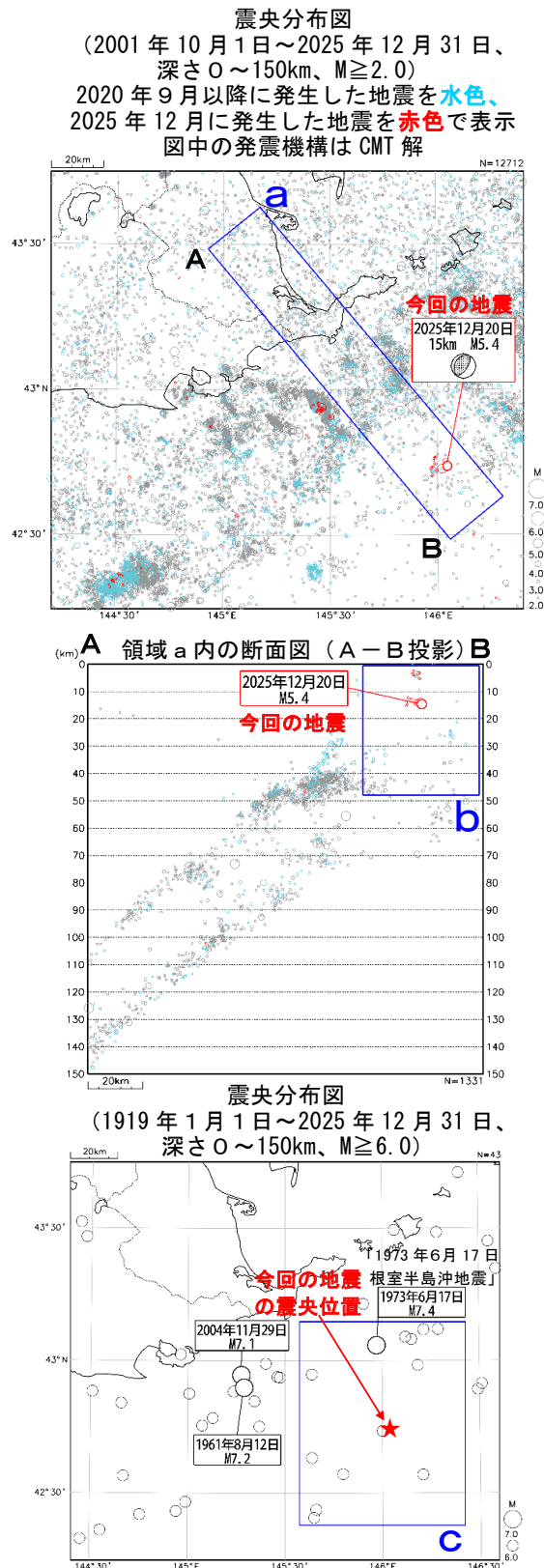


※変位波形は加速度記録を気象庁59型地震計相当に変換したもの

第2図(b) つづき

Fig. 2(b) Continued.

## 12 月 20 日 根室半島南東沖の地震

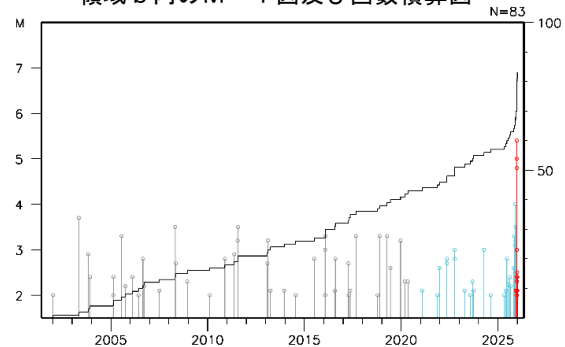


2025年12月20日21時30分に根室半島南東沖の深さ15kmでM5.4の地震（最大震度3）が発生した。発震機構（CMT解）は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

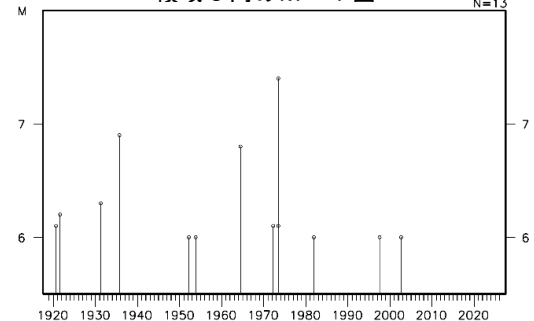
2001年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）では、M4程度の地震はまれに発生しているが、M5.0以上の地震は発生していなかった。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、M7.0以上の地震が1回発生している。「1973年6月17日根室半島沖地震」（M7.4、最大震度5）では、根室・釧路地方で負傷者26人などの被害が生じ、根室市花咲で最大の高さ280cm（平常潮位からの最大の高さ）の津波を観測するなど、北海道から四国地方にかけての太平洋沿岸で津波を観測した（被害は「日本被害地震総覧」による）。

領域 b 内の M-T 図及び回数積算図



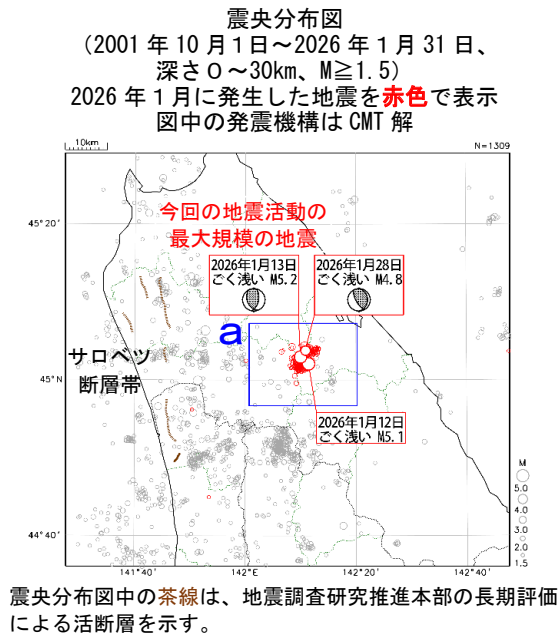
領域 c 内の M-T 図



第 3 図 2025 年 12 月 20 日 根室半島南東沖の地震

Fig. 3 The earthquake southern east off the Nemuro Peninsula on December 20, 2025.

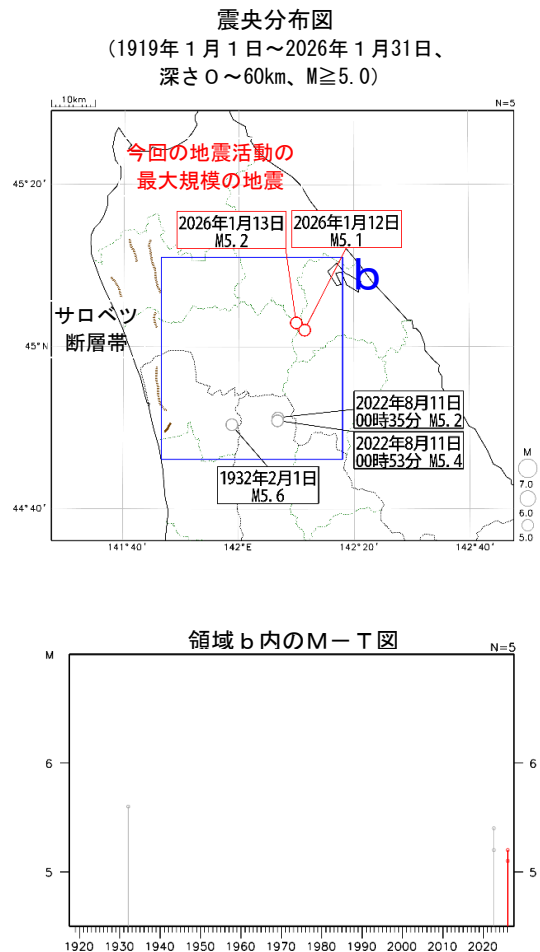
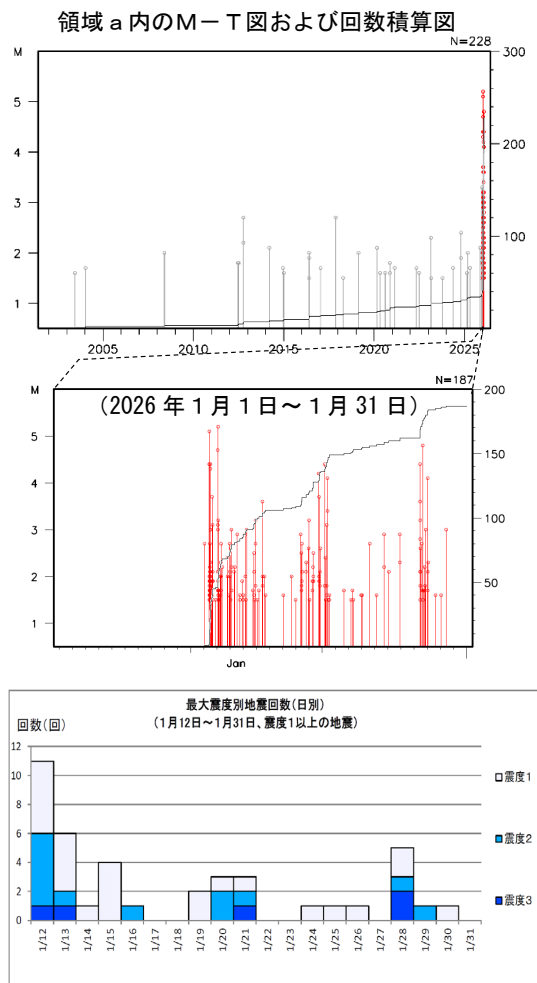
## 1 月 12 日からの宗谷地方北部・南部の地震活動



宗谷地方北部・南部では、2026年1月12日  
01時頃からややまとまった活動が見られ、31  
日までに、震度1以上を観測した地震が41  
回(震度3:5回、震度2:12回、震度1:  
24回)発生した。これらの地震は地殻内で発  
生した。このうち最大規模の地震は13日01時  
58分に発生した $M5.2$ の地震(最大震度3)  
である。この地震の発震機構(CMT解)は東西方  
向に圧力軸を持つ逆断層型である。

2001年10月以降の活動をみると、今回の地  
震の震央付近(領域a)では、 $M3$ 程度の地震  
がまれに発生しているが、 $M5.0$ 以上の地震は  
発生していなかった。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の  
震央周辺(領域b)では、 $M5.0$ 以上の地震が  
今回の活動を除いて3回発生している。2022  
年8月11日に発生した $M5.4$ の地震(最大震  
度5強)により、住家被害2棟の被害が生じ  
た(被害は総務省消防庁による)。

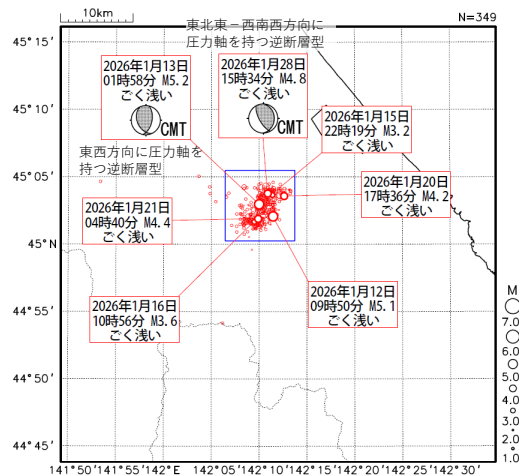


第 4 図 (a) 2026 年 1 月 12 日～宗谷地方北部・南部の地震活動

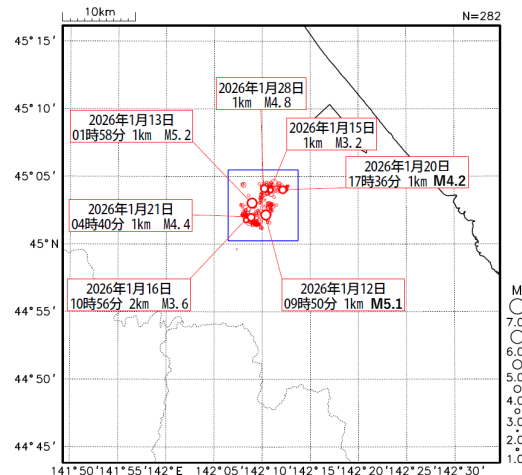
Fig. 4(a) Seismic activity in the northern and southern parts of Souya region from January 12, 2026.

## 宗谷地方の地震活動

上図：一元化震源の震央分布図(2026年1月1日～28日、 $M \geq 1.0$ 、深さ0-10km)  
下図：一元化震源の断面図(東西投影)

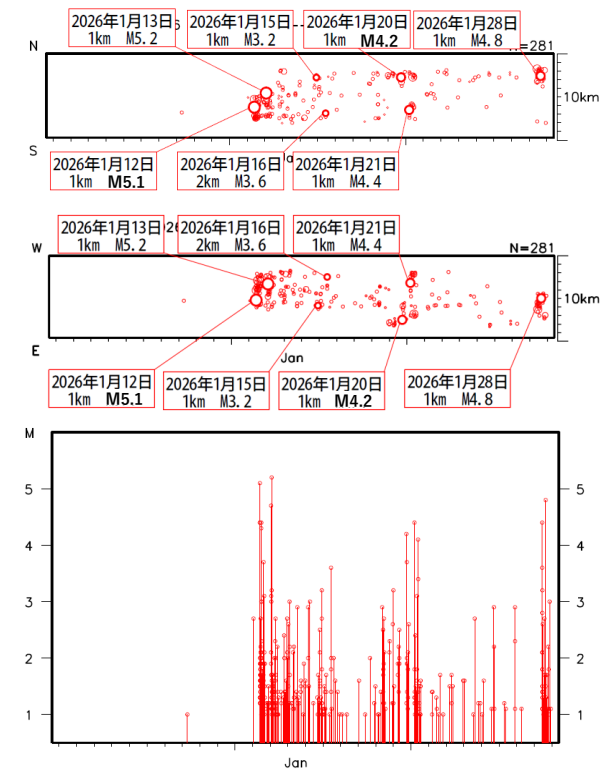


上図：DD震源の震央分布図(2026年1月1日～28日、 $M \geq 1.0$ 、深さ0-10km)  
下図：DD震源の青枠内の断面図(東西投影)



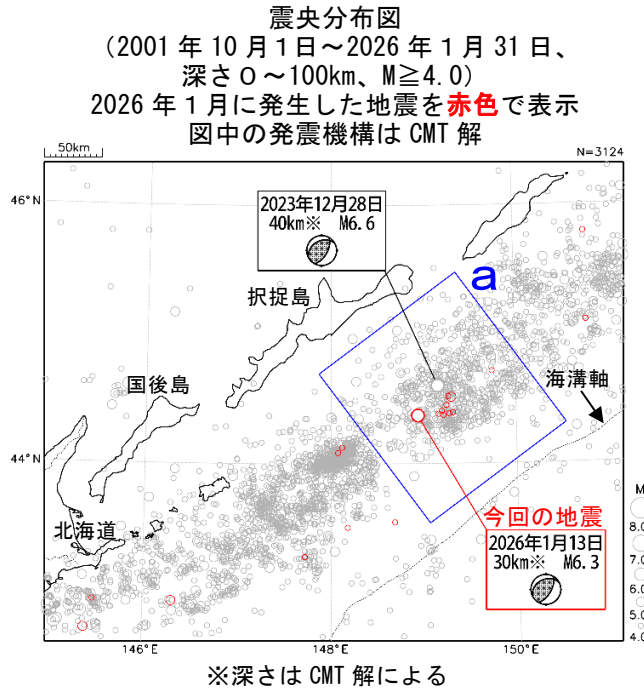
1月1日から28日までのデータを使用し波形相関を用いたDD(Double-Difference)法による震源再決定を行った。

上図：DD震源の時空間分布図(南北投影)  
中図：DD震源の時空間分布図(東西投影)  
下図：一元化震源の青枠内のM-T図



第4図(b) つづき  
Fig. 4(b) Continued.

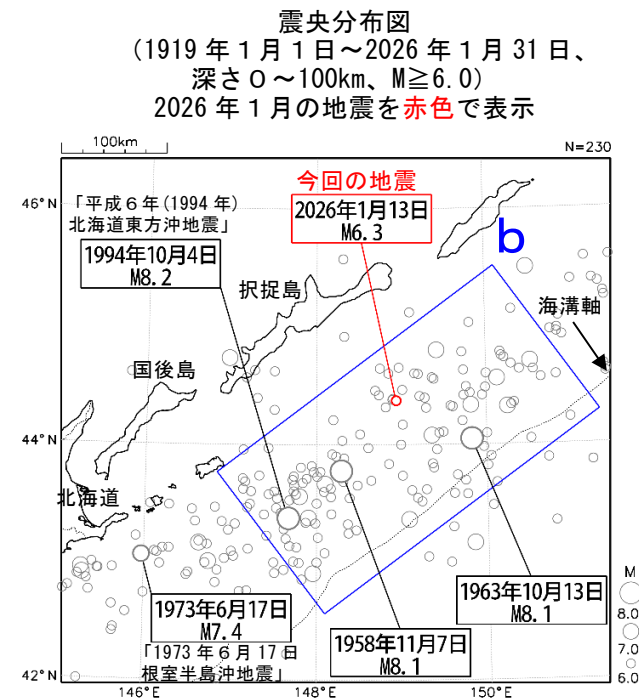
# 1 月 13 日 択捉島南東沖の地震



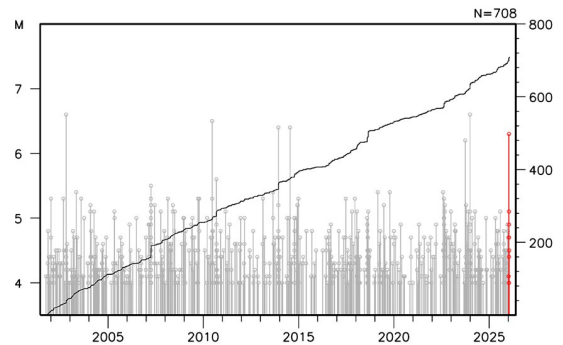
2026 年 1 月 13 日 16 時 34 分に択捉島南東沖の深さ 30km(CMT 解による)で  $M6.3$  の地震(最大震度 2)が発生した。この地震の発震機構(CMT 解)は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

2001 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域 a)では、 $M6.0$  以上の地震が今回の地震を除いて 6 回発生しており、直近では、2023 年 12 月 28 日に  $M6.6$  の地震(最大震度 3)が発生している。

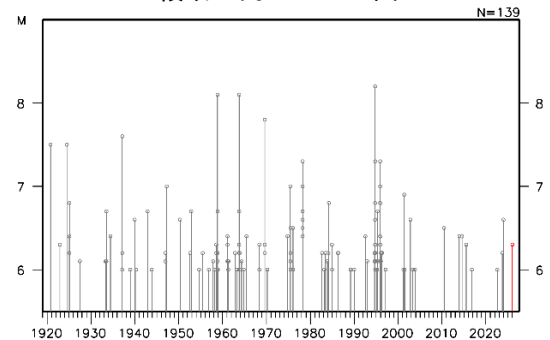
1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域 b)では、 $M8.0$  以上の地震が 3 回発生している。1994 年 10 月 4 日に発生した「平成 6 年(1994 年)北海道東方沖地震」( $M8.2$ 、最大震度 6)では、根室市花咲で 168cm(平常潮位からの最大の高さ)の津波を観測するなど、北海道から沖縄県にかけて津波を観測したほか、重軽傷者 436 人、住家被害 4,586 棟などの被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。



領域 a 内の M-T 図及び回数積算図



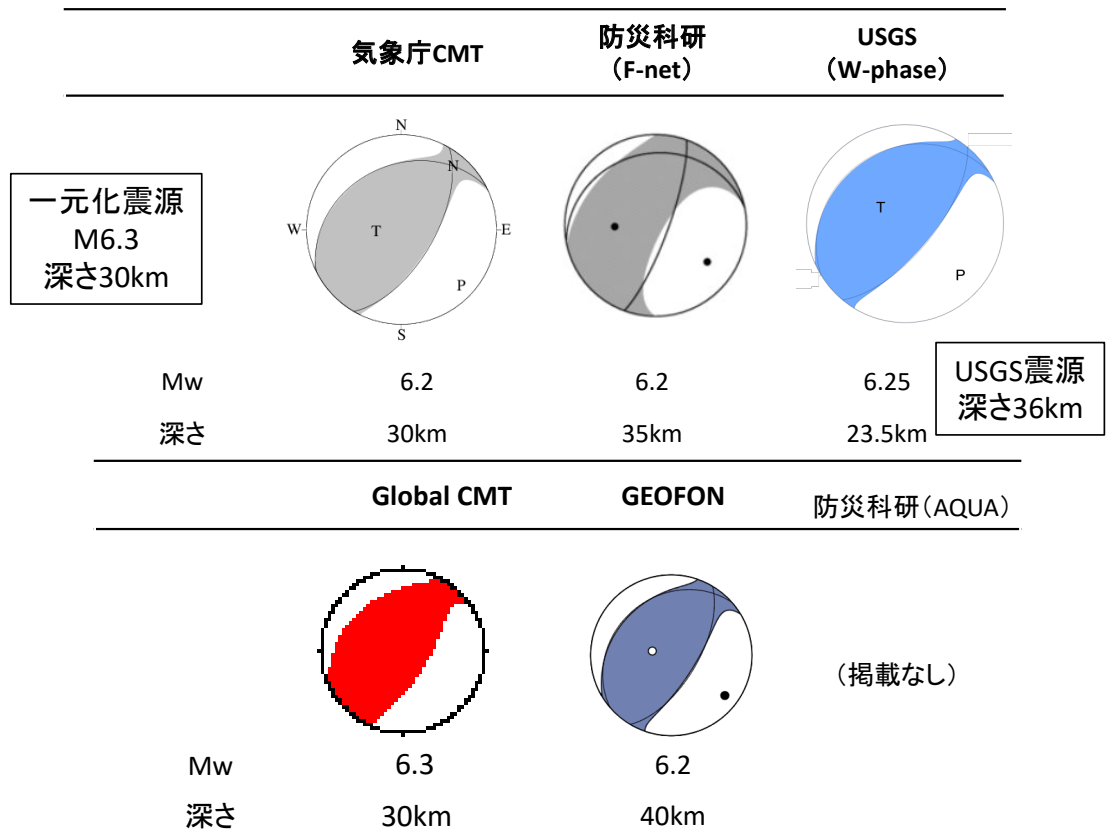
領域 b 内の M-T 図



第 5 図 (a) 2026 年 1 月 13 日 択捉島南東沖の地震

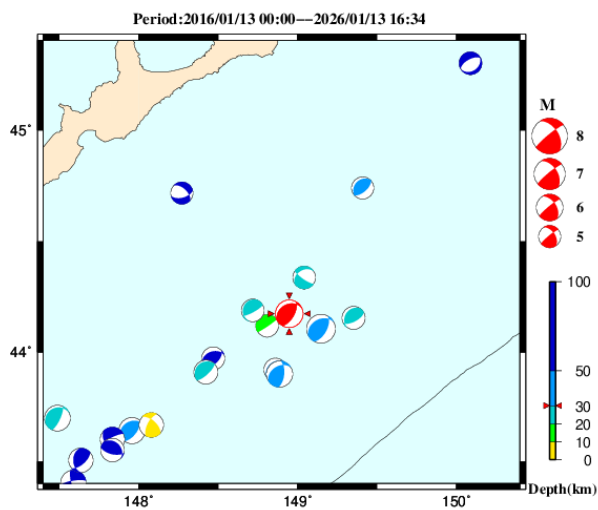
Fig. 5(a) The earthquake southern east off Etorofu Island on January 13, 2026.

1月13日 択捉島南東沖の地震(各機関のMT解)



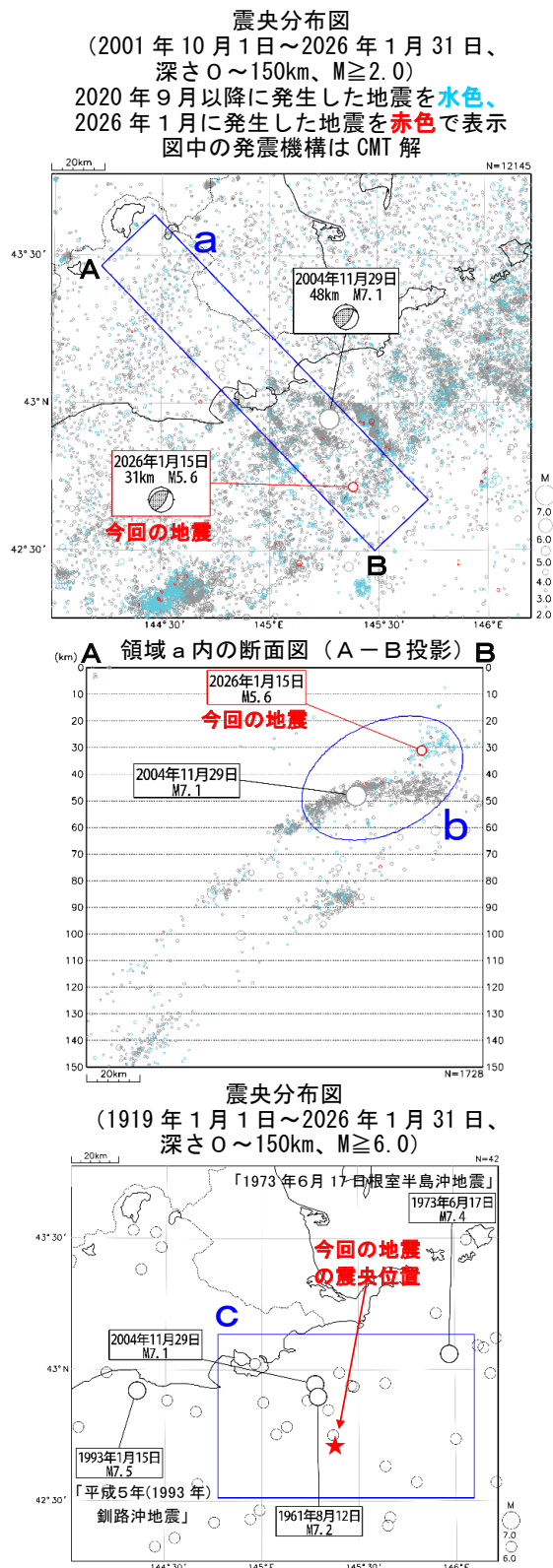
防災科研 (F-net) : <https://www.fnet.bosai.go.jp/event/joho.php?LANG=ja>  
 USGS (W-phase) : <https://earthquake.usgs.gov/earthquakes/map/>  
 Global CMT : <https://www.globalcmt.org/CMTsearch.html>  
 GEOFON MT : <https://geofon.gfz-potsdam.de/eqinfo/list.php?mode=mt>  
 防災科研 (AQUA) : [https://www.hinet.bosai.go.jp/AQUA/aqua\\_catalogue.php?LANG=ja](https://www.hinet.bosai.go.jp/AQUA/aqua_catalogue.php?LANG=ja)

周辺の気象庁CMT解の分布図



第 5 図 (b) つづき  
 Fig. 5(b) Continued.

## 1 月 15 日 釧路沖の地震

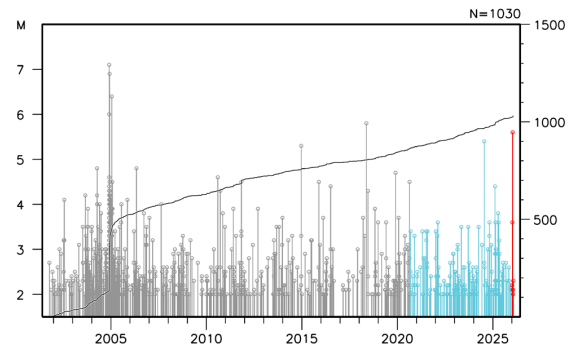


2026 年 1 月 15 日 07 時 13 分に釧路沖の深さ 31km で M5.6 の地震 (最大震度 3) が発生した。発震機構 (CMT 解) は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

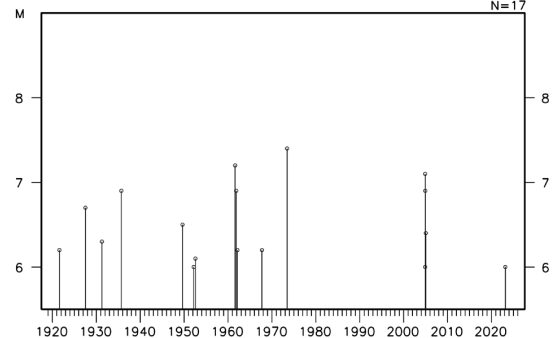
2001 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域 b) では、M5.0 以上の地震が時々発生している。2004 年 11 月 29 日に発生した M7.1 (最大震度 5 強) の地震では、負傷者 52 人、住家被害 5 棟などの被害が生じ、根室市花咲で最大の高さ 12cm の津波を観測するなど、北海道太平洋沿岸東部で小さな津波を観測した (被害は総務省消防庁による)。

1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域 c) では、M7.0 以上の地震が 3 回発生している。「1973 年 6 月 17 日根室半島沖地震」 (M7.4、最大震度 5) では、根室・釧路地方で負傷者 26 人などの被害が生じ、根室市花咲で最大の高さ 280cm (平常潮位からの最大の高さ) の津波を観測するなど、北海道から四国地方にかけての太平洋沿岸で津波を観測した (被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域 b 内の M-T 図及び回数積算図



領域 c 内の M-T 図

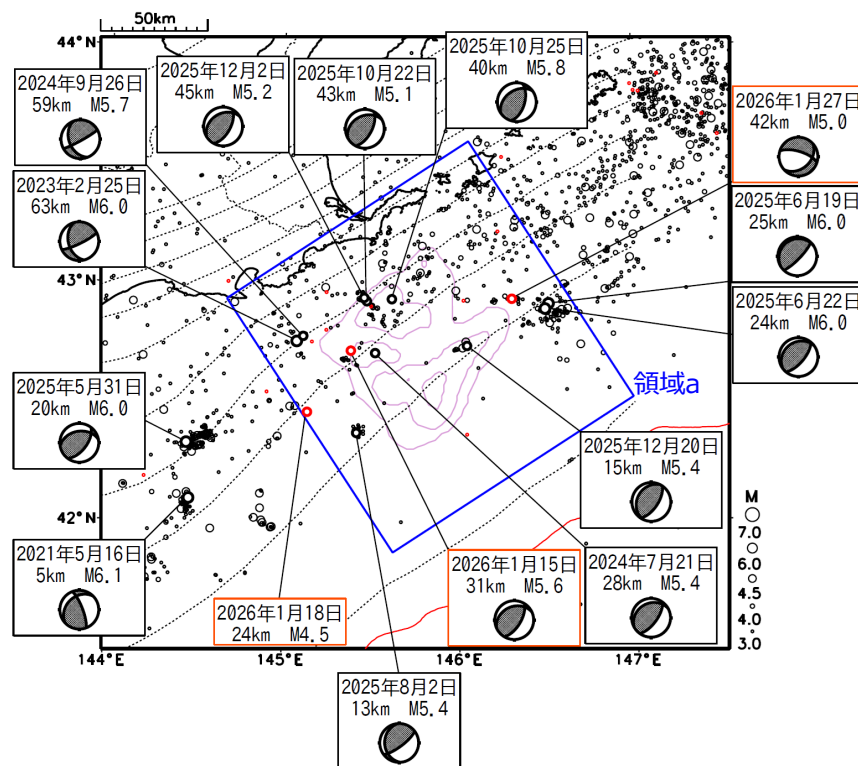


第 6 図 (a) 2026 年 1 月 15 日 釧路沖の地震

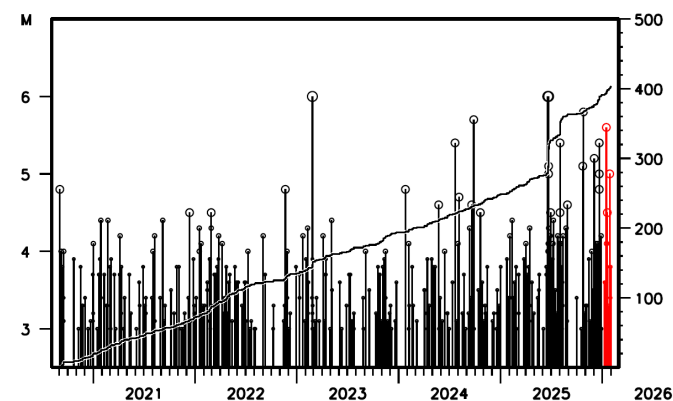
Fig. 6(a) The earthquake off Kushiro on January 15, 2026.

# 1月15日釧路沖の地震・27日根室半島南東沖の地震（1973年根室半島沖地震の地震時すべり分布）

震央分布図  
2020年9月1日（S-net活用）～2026年1月31日、深さ0～150km、 $M \geq 3.0$   
発震機構はCMT解を示す  
2026年1月の地震を赤色で表示



領域a内のM-T図及び回数積算図

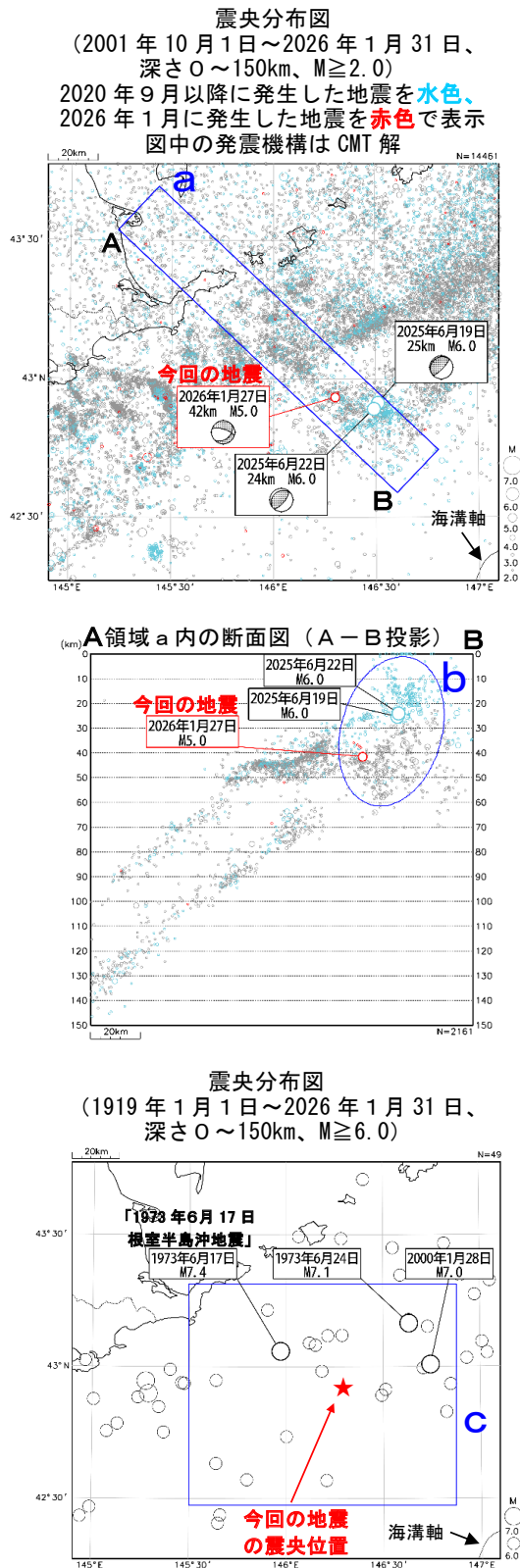


- ・薄紫色のコンターは、1973年根室半島沖地震の地震時すべり分布〔山中(2005)〕を示す。
- ・黒色破線は、太平洋プレート上面モデルの等深線（Kita et al., 2010、Nakajima and Hasegawa, 2006）を示す（10km間隔）。

第6図 (b) つづき

Fig. 6(b) Continued.

## 1 月 27 日 根室半島南東沖の地震

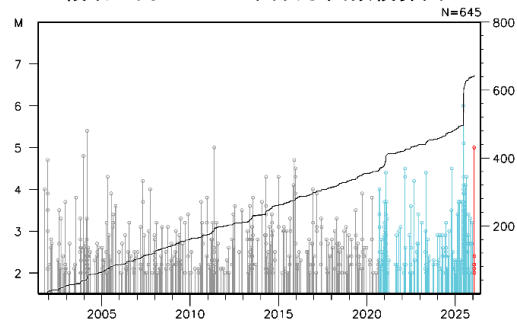


2026 年 1 月 27 日 11 時 47 分に根室半島南東沖の深さ 42km で M5.0 の地震（最大震度 3）が発生した。この地震は、太平洋プレート内部で発生した。発震機構（CMT 解）は南北方向に張力軸を持つ型である。

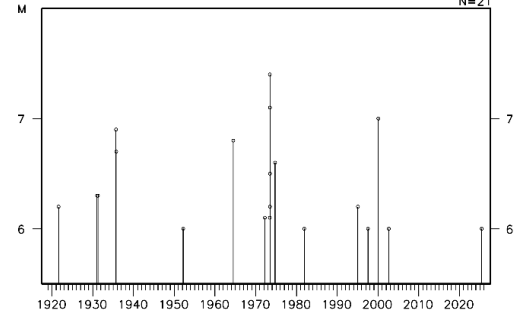
2001 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域 b）では、M5.0 以上の地震が今回の地震を除いて 4 回発生している。最大規模の地震は 2025 年 6 月 19 日に発生した M6.0 の地震（最大震度 4）と、同年 6 月 22 日に発生した M6.0 の地震（最大震度 3）である。

1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域 c）では、M7.0 以上の地震が 3 回発生している。「1973 年 6 月 17 日 根室半島沖地震」（M7.4、最大震度 5）では、根室・釧路地方で負傷者 26 人などの被害が生じ、根室市花咲で最大の高さ 280cm（平常潮位からの最大の高さ）の津波を観測するなど、北海道から四国地方にかけての太平洋沿岸で津波を観測した（被害は「日本被害地震総覧」による）。

領域 b 内の M-T 図及び回数積算図



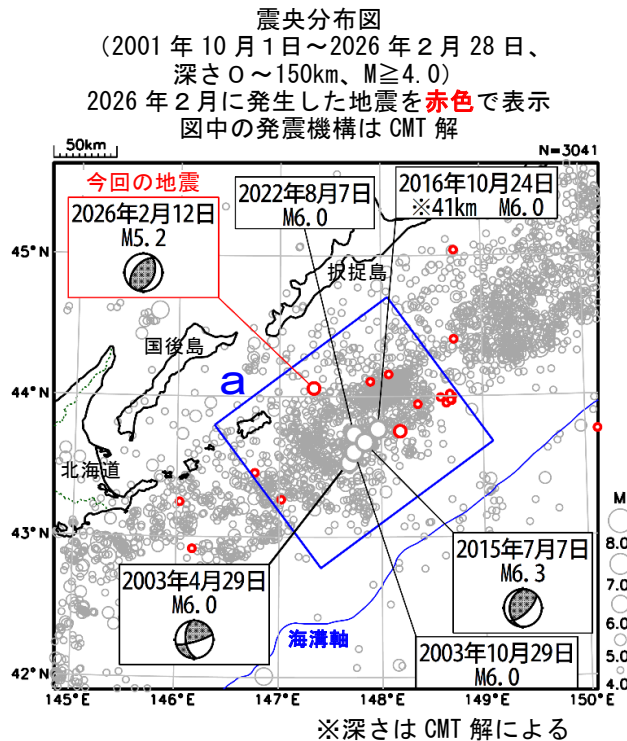
領域 c 内の M-T 図



第 7 図 2026 年 1 月 27 日 根室半島南東沖の地震

Fig. 7 The earthquake southern east off the Nemuro Peninsula on January 27, 2026.

## 2 月 12 日 北海道東方沖の地震

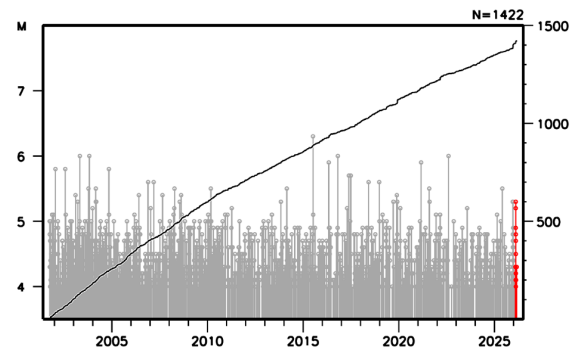


2026 年 2 月 12 日 03 時 00 分に北海道東方沖で  $M5.2$  の地震（最大震度 3）が発生した。この地震の発震機構（CMT 解）は、西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

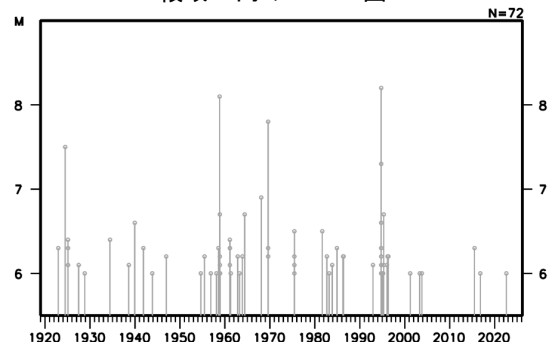
2001 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域 a）では、 $M6.0$  以上の地震が 5 回発生しており、2015 年 7 月 7 日には  $M6.3$  の地震（最大震度 3）が発生した。

1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域 b）では、 $M7.0$  以上の地震が 5 回発生しており、1994 年 10 月 4 日の「平成 6 年（1994 年）北海道東方沖地震」（ $M8.2$ 、最大震度 6）では、北海道根室市花咲で 168cm（平常潮位からの最大の高さ）の津波など、北海道から沖縄の太平洋沿岸、オホーツク海沿岸で津波を観測した。また、この地震により、重軽傷者 436 人、住家被害 4,586 棟などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

領域 a 内の M-T 図及び回数積算図



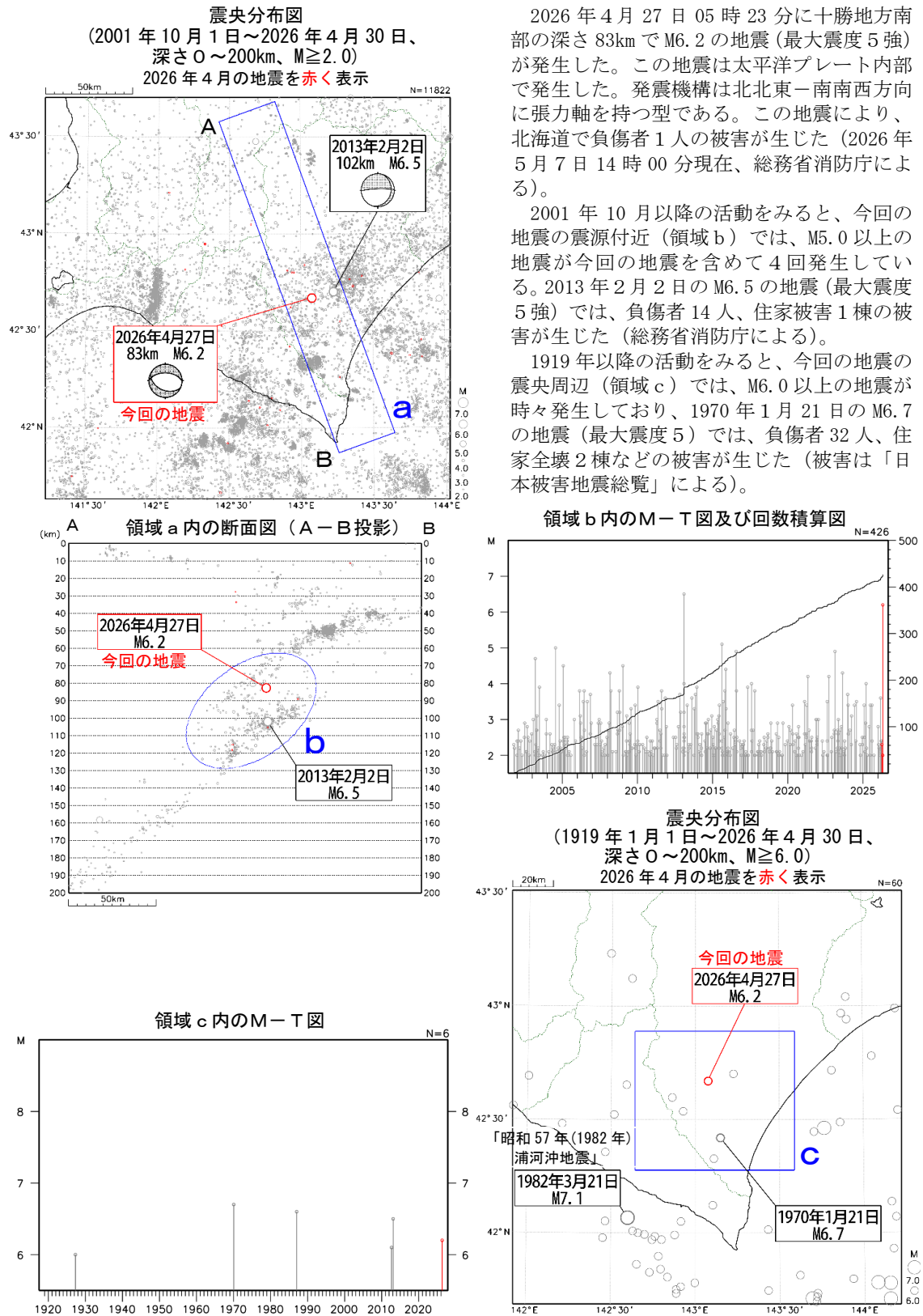
領域 b 内の M-T 図



第 8 図 2026 年 2 月 12 日 北海道東方沖の地震

Fig. 8 The earthquake east off Hokkaido on February 12, 2026.

## 4 月 27 日 十勝地方南部の地震



第 9 図 2026 年 4 月 27 日 十勝地方南部の地震

Fig. 9 The earthquake in the southern part of Tokachi region on April 27, 2026.